

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援センター クローバー			
○保護者評価実施期間	R 6 年 4 月 1 日 ~ R 7 年 1 月 31 日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	29	(回答者数)	20
○従業者評価実施期間	R 6 年 4 月 1 日 ~ R 7 年 1 月 31 日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答者数)	2
○訪問先施設評価実施期間	R 6 年 4 月 1 日 ~ R 7 年 1 月 31 日			
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	42	(回答数)	39
○事業者向け自己評価表作成日	R 7 年 3 月 31 日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	支援の専門性 作業療法士としての医学的視点からの行動分析と課題解決案の提示	具体的にわかりやすく伝える事。 本人、保護者、先生との橋渡しを行うこと。	より専門性の高い研修会、勉強会へ参加し研鑽を積んでいます。
2	本人、保護者、訪問先と深くコミュニケーションを図る。	それぞれの意向を把握し、子供ファーストの支援を行っていく。保護者、訪問先が出来る事から、無理のない関わりを提案していく。「エンパワーメント支援」を行う。	より専門性の高い研修会、勉強会へ参加し研鑽を積んでいます。
3			

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業に関する広報不足	事業自体の認知度が低い。	制度に関して定期的に広報し、対象施設関係者の多くの理解を得る事
2	対応できる曜日や時間帯に偏りが出ている。	訪問支援員が児童発達支援事業との兼務のため。	従業員を増員し、曜日時間帯に偏りなく支援を行うことができるよう体制を整えていく。
3			